

第 3 回会合において出された主な意見

- 本年度の総務省による試験通信は、郵便業務の負荷が大きい時期に実施するなど、時期・対象・ルート等を絞って重点的に実施する（ストレステスト）という考え方もある。
- 本年度の総務省による試験通信は、公社（郵便事業会社）による試験通信の方法について公社（郵便事業会社）に対して指導するための事例収集として実施するという考え方もある。
- 配達状況に問題があると考えられる郵便局のデータを公社に提供しているが、あまり改善がみられないという印象。本年度の総務省による試験通信は、ユーザーサイドで把握しているデータも参考にして設計することも考えられる。
- 「試験通信」という言葉ではモニタリングするという趣旨がよく国民に伝わらないのではないか。郵便物が適正に送達されているかの調査であるということがきちんと表されるような名称を工夫されてはどうか。